人権作文　代表作品

やさしさがえし

渡瀬小学校二年　ながお　あゆり

わたしは、休みじかんにあそんでいたとき石につまずいてころんでしまいました。手あてをしてもらおうと、ほけんしつに行きました。でも、ほけんの先生がいなかったので、きょうしつにもどりました。きょうしつに入ると、みんなが、

「あれ、どうしたの。だいじょうぶ。」

と、心ぱいしてくれました。そして、ほけんがかりのAさんが、

「もう一かいほけんしつに行ってみよう。」

と言って、いっしょにほけんしつまで行ってくれましたが、まだ先生はいませんでした。そこで、Aさんが、

「しょくいんしつにいると思うから、よんでくるね。」

と言ってくれたので、けがのところがいたかったけれど、がまんができました。

Aさんがよんできてくれたので、ぶじに手あてをしてもらうことができました。

わたしは、Aさんに、

「休みじかんがなくなっちゃってごめんね。」

と、あやまったら、

「ぜんぜんだいじょうぶ。気にしないで。」

と言ってくれたので、とてもうれしかったです。

わたしは、友だちがこまっていたら、Aさんのように、やさしくしてあげようと思いました。

それから、なん日かたったある日、おなじクラスのBさんが、うんていからおちて足をいたそうにしていたので、いっしょにほけんしつに行きました。Bさんが、

「ありがとう。」

と、うれしそうに言ってくれたので、こえをかけてよかったなと思いました。

これからも、こまっている人がいたら、すすんでたすけてあげたいです。

心を失う戦争の怖さ

神川中学校三年　髙橋　一真

私は中三の一学期に道徳の授業で戦争中に沖縄で起きた集団自決のことを学びました。

今まで私は沖縄の歴史のことにはあまり興味を持とうとしなかったため、集団自決という言葉は聞いた事があっても具体的な内容はわかりませんでした。私たちは先生に電子黒板で一つの動画を見せてもらいました。それは、タレントのりゅうちぇるさんが集団自決を逃れた祖母のことを話している動画でした。彼の祖母は知らない人に襲われて怖くて逃げだしたそうです。逃げている途中で自分の子供を亡くされたそうです。その話を聞いて僕は目の前で自分の知っている大切な人達が死んでいくのを見るのは言葉に言い表せないくらい辛いことだろうと思いました。

幸いにも、りゅうちぇるさんの祖母はアメリカ軍から逃げ切って集団自決にも巻き込まれずに済みましたが、自決することを選んだ人々は、米軍が来た時に道連れにするようにと、あらかじめ日本軍の兵から渡されていた手榴弾を使いましたが、不発のものがほとんどで、人々は様々な方法で身内を殺したそうです。日本軍による「生きて虜囚の辱めを受けず」という戦陣訓の教えによって、自決を迫られていたため、こうするしか道はありませんでした。

自分の家族を殺さなければならなかった人々はとても苦しかったと思います。なぜ、当時の日本軍は彼らに自ら命を投げ出させるような事をしたのでしょうか。彼らの命を守ることが本来の日本軍の仕事だったのに、なぜ彼らに集団自決をさせるような事をしたのだと自分は思いました。

このように戦争は人々を壊してしまいます。心をなくしてしまいます。物理的にもそうですが、戦争によって、本来絶対に死んでほしくない人々を自らの手で殺してしまったり、本来守るべきものを見失ってしまったり、家族や友人を失って悲しみの中生きていかなければならなくなったりと様々です。このような戦争による悲劇を二度と起こさないようにするためには、今を生きる私達が相手の立場に立って考えたりすることが大切だと思います。そうすればお互いのことをさらに大事に考えることができるからです。今でもロシアとウクライナのように戦争が続いている国はたくさんありますが、いつか全ての人々が自分の大切な人々といっしょに笑い合うことができる世界を作るために自分も今、できることを精一杯やっていこうと思います。

その他の代表作品（タイトル、作者名）

姉妹はケンカする
青柳小学校三年　松本　成央

思いやりの勇気
神泉小学校四年　芳家　皐

びょうどう
青柳小学校五年　山﨑　誠志郎

子どもの人権を守ろう
渡瀬小学校六年　赤見　きなり

夢を持てる幸せ
神川中学校一年　宮下　悠我

差別よりも感謝を
神川中学校二年　飯塚　小晴